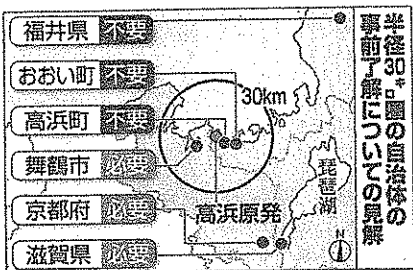


17/18
期日

割れる30km圏内

高浜再稼働へ 自治体賛否



関西電力高浜原発3、4号機（福井県高浜町）の再稼働に向けて、原子力規制委員会が17日、事実上のグリーンサインを出した。地元同意などの手続きが順調に進めば、来春以降に運転が再開される。早期の再稼働を求めてきた地元自治体は歓迎するが、事故時には住民避難が迫られるにもかかわらず、再稼働の判断に賛成できない周辺自治体は反発を強めている。

▼1面参照

地元福井「判断を尊重」

「規制委の判断を尊重したい」。高浜原発がある福井県高浜町の野瀬豊町長は17日、規制委の審査書案了承を歓迎した。さらに、「幾つかの残った手続きが残っている。引き続き審査の動向を注視したい」と語った。

この日、原発が立地する地域など選出の福井県議12人が高浜原発を視察した。田村康夫議長は「任期の間、いい方向性を出したい」と、統一地方選がある来年4月までに、県議会として再稼働に同意する可能性を示唆した。

西川一誠知事もコメントを出し、規制委に対し「残った手続きについて日程を明確にし、遅滞なく進めるべきだ」と要求。そのうえで「国は原子力の重要性を国民に強く訴え、責任あるエネルギー政策を揺るぎなく実行すべきだ」とした。

高浜原発の安全対策工事に携わる関西電力の社員を受け入れている高浜町の老舗旅館「鼓松」。時岡明秀社長(56)は「再稼働すれば定期検査も必要になり、(商売は)ひとまずは安心だ」と話す。

福井県内の有効求人倍率は、8月から10月まで全国平均を上回る1.45倍を維持し、好調だ。高浜町を管轄するハローワーク小浜の担当者は「原発が稼働し、

隣接首長の反発相次ぐ

再稼働の判断にかかわれない自治体は反発する。高浜原発の半径30km圏に約12万8千人が住む京都府。山田啓一知事はこの日、関西電力の岩根茂樹副社長と面談し、「何かあった場合には立地県並みに真っ先に影響を受ける。安全についてモノが言える協定が大前提だ」とクギを刺した。

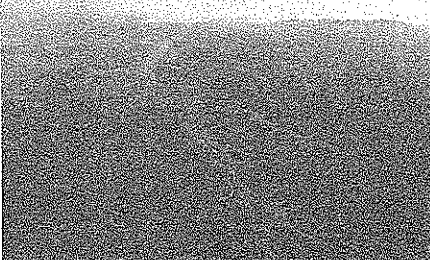
滋賀県の三日月大造知事も17日、実効性のある避難計画ができていないことも挙げ、「避難態勢が不十分なままで原発を動かす判断をするときは断固抗議していく」と話した。

高浜原発とプルサーマル発電
東京電力福島第一原発事故の前まで、1〜4号機の4基で関西電力の総発電量の約2割を占めた(2010年度実績)。関電は10年12月に初めて3号機でプル

トニウム・ウラン混合酸化物(MOX燃料)を燃料に使う「プルサーマル発電」を実施。プルトニウムを使うことから通常の原発より危険性が高いとの指摘もある。13年6月には福島原発

事故後では国内で初めてフランスからMOX燃料を高浜原発に移送したが、関電は公式にはプルサーマル発電による再稼働を明言していない。関電は1、2号機は稼働40年を超えても運転を続ける構えだ。

高浜原発(左下)の上空から琵琶湖(奥)を望む。福井県高浜町、本社機から、豊田根功撮影



定期検査が始まれば、さらに高浜町近辺の飲食業や小売業の求人が好調になるだろう」と見込む。

「国民的議論 避けているのか」

再稼働禁止求めた原告ら 怒り

「再稼働禁止への道は険しく、なかなか思い通りにならない」
高浜原発3、4号機の審査書案が17日、了承されたのを受け、福井県敦賀市議の今大地晴美さん(64)はため息をついた。

大飯原発3、4号機の運転差し止めを求める訴訟の原告団に加わり、今年5月、福井地裁で勝訴した。だが、関西電力は控訴。判決は確定せず、このままでは再稼働は止められない。

今日5日、規制委の審査が進んでいた高浜3、4号機も加え、暫定的に4基の再稼働の禁止を求める仮処分を福井地裁に申し立てた。来年1月28日に審理が始まる。「地裁にはスピード審理を求めたい」。原告団のおせりも響く。

一方、滋賀県長浜市の辻義則さん(67)は衆院選で与党が大勝した直後の了承に反発する。「規制委は国民的議論を避けようとしているのかようだ」

辻さんは滋賀、京都、大阪の住民とともに高浜3、4号機、大飯3、4号機の再稼働禁止を求める仮処分を大津地裁に申し立てたが、11月に却下された。辻さんらは、年明けにも改めて再稼働禁止を求める法的手続きを進める考えだ。

ておらず、この範囲の自治体の意見に耳を傾けるかは電力会社任せだ。

一部が高浜原発の30km圏にかかると京都府福知山市の松山正治市長は「(30km圏の)すべての自治体の同意が必要だ」と話す。だが、朝日新聞が10月に実施したアンケートで、福井県の西川一誠知事は「地元自治体とは立地県と立地市町」と主張。関電の八木誠社長も、地元同意を得る範囲を「立地の県と町」との認識を示す。